

ラ設ケタル主旨ノ如何ヲ問ヘハ唯一般公司ノ  
 由ノ原則ニ對スレハ全ク格別モノニシテ之  
 テ專有スルモノヲ云フナリ故ニ此權ハ高業自  
 ニ屬ス可キ商工ニ業ノ權利ヲ一人或ハ数人ニ  
 專賣ノ權トハ道理上ヨリ之ヲ觀レハ元來衆人  
 ル主旨

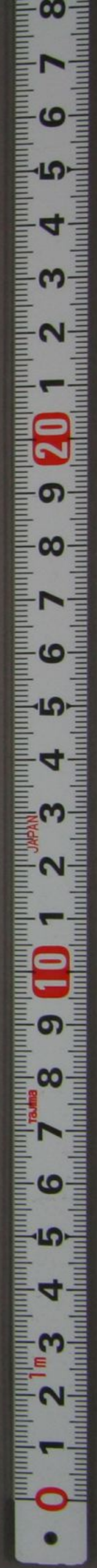
專賣權ノ裁意及ヒ此權ヲ設ケタ  
 第三章 政府ノ為ノ設ケシ專賣ノ權



仙  
商  
工  
法  
鑑  
卷  
之  
二

414  
A1016  
之

大  
正  
十  
一  
年  
四  
月  
癸  
酉  
日





利益ニ基クト答フルニ過キサルノ三  
故ニ政府ハ特別ニ或ル物岳ヲ製造發賣シ又ハ  
或ル事業ヲ行フノ專權ヲ有セリ蓋シ此專權ハ  
悉皆同一ノ性質ニ屬スルニ非ス依テ之ヲ分テ  
甲乙ノニ者ト為ス下左ノ如シ  
甲ハ全ク收税ニノミ關涉シテ公費ヲ補給スル  
主旨ニ基キテ設ケタル者トス今之ヲ舉レハ煙  
草、印紙及ヒ骨牌紙ヲ製造シ及ヒ之ヲ發賣スル  
專權ノ如キ即チ是レナリ  
乙ハ警察法及ヒ公ケノ靖寧ニ關係スル者アリ

九ハ或ル事業ヲ精密方正ナラシム可キ要旨ニ  
基キタル者アリ而シテ此專賣ノ權タルヤ亦固ヨ  
リ多ク政府ノ歳入ヲ補足ス可キニ因リ收税ノ  
性質アルカ如シト雖モ是レ畢竟附帶ノ性質ヲ  
ルニ過キスレテ此專權ヲ設ケタル主旨ニハ非  
サルナリ今之ヲ舉レハ貨幣ノ製造、茶ノ製造  
及ヒ其發賣郵便電信ノ如キ即チ是レナリ  
以上掲クル所ノ諸行ハ逐次左ニ之ヲ説述ス可  
シ

第一款 煙草



煙草專賣ノ權及ヒ此權ノ設クルノ主要

政府ニ屬スル專賣權中特ニ煙草專賣ノ權ヲ以テ重要ノ者ト為ス所以ハ蓋シ煙草ノ賣高著大ナルヲ以テ之ヲ証ス可ク試ニ之ヲ舉レハ千八而七十一年間ノ賣高ハ現ニ二億一千七百三十萬五千「フランク」ニ及ヘリ  
外國ノ煙草ヲ輸入シ及ヒ内國ニ煙草ヲ作ルハ共ニ政府ノ莫計ノ為ニ非カレハ之ヲ為スヲ許ス且内産外入ノ別ナク之ヲ製造シ若クハ之

ヲ發賣スルニ於テモ亦然リトス而シテ煙草作出ノ取締、煙草ノ製造及ヒ其發賣ニ關スル諸事ハ皆關稅司ノ管掌スル所ナリ

煙草ノ作出及ヒ煙草作出人ノ義務

仙國ニ於テ煙草ヲ作出スルハ特ニ勅命ヲ以テ指定シタル州ニ限リ其他ノ諸州ハ一般ニ之ヲ禁シタリ但シ自己ノ庭園若クハ園鏡内ニ於テ二十株以下ノ煙草ヲ作ルハ此限リニ非ス其指定シタル州内ニ於テ煙草ヲ作ラ

欲ス



ル者ハ其由ヲ官ニ届ケ其許可ヲ受ク又其  
届ヲ為スニハ煙草ヲ作ル可キ土地ノ唐狹即チ坪数  
ヲ定メテ之ヲ申立ツ可シ然ル時ハ本州ノ長ノ  
上席シタル特設委員ヨリ之ヲ許可スベシ  
例年大藏卿ハ煙草ヲ作ル可キ土地ノ坪数ト官  
ニ納ム可キ煙草ノ分量ト翌年收納ス可キ煙草  
各種ノ代價トヲ定ム可ク然ル上之ヲ基礎トシ  
テ煙草作出ノ許可ヲ與フ可シ  
右ノ許可ヲ受ケタル煙草作出人ハ其收納ノ全  
部ヲ官ニ納ム可ク若シ不足シタル時ハ其量ニ

應シ代價ヲ以テ之ヲ納ム可シ又水火等ノ災害  
ニ遇ヒ其收納ス可キ煙草ノ成分ヲ失フタル時  
ハ直ニ其由ヲ官ニ告ケ其失ヲ證明セシム可シ  
然ラサレハ其損失ノ分ヲ償フノ責ニ任ス可シ  
煙草作出ニ就テハ特定ノ官吏之レカ監督ヲ為  
シ其作出人ノ免許状ニ指定シタル境界外ニ煙  
草ヲ作ラサルヲ檢視シ煙草ノ株数葉数及ヒ其  
不足分ヲ改メ且其收納セシ煙草ノ全部ヲ納メ  
タルヤ否ヤヲ取調フ可シ故ニ此官吏ノ任ヲ概  
言スレハ官ヲシテ詐欺ノ為ノ損害ヲ



シムルニ在リトス  
其他詐欺ヲ為ス者ハ之ヲ嚴罰處ス可シ故ニ  
煙草作出人若シ其免許狀ニ指定セシ坪數ニ過  
クルト五分一以上ノ地ニ之ヲ作り若クハ煙草  
ノ株數規則上ニ許セシ數ノ五分一以上ニ過キ  
タル時ハ其罰金ヲ科セラレ且將未煙草ヲ作ル  
ノ禁ヲ受ク可シ  
收納セシ煙草ハ悉皆之ヲ官ニ納メ作出人私ニ  
之ヲ貯フルトテ許サズ又煙草ノ茎及ヒ根ハ直  
ニ之ヲ拔キ棄ツ可シ

煙草作出人ハ特定ノ規則ヲ踐ミ其許可ヲ得タ  
ルニ於テハ政府ノ煙草製造司ノ用ニ供スルノ  
外別ニ外國輸出ノ為ニ煙草ヲ作ルヲ得可シ  
但シ然ル時ハ内國ノ製造用ニ供スル時ト同一  
ノ監督ヲ受又其收納セシ煙草ハ翌年八月一日  
前ニ悉皆之ヲ外國ニ輸出ス可シ

煙草ノ製造及ヒ其發賣

煙草ノ製造ハ國費ヲ以テ設立シタル製造所ニ  
於テ之ヲ為シ前稅司所屬ノ官吏之ヲ指揮ス而  
シテ此製造所ハ各都會特ニ巴里リヨニ及ヒ



ントニ在リテ之ヲ國立煙草製造所ト名ク  
煙草ノ發賣ハ煙草賣捌所ニ於テ之ヲ爲シ其賣  
捌所ノ人實ハ官ノ選任スル所ニシテ常ニ官ヨ  
リ嚴重ナル監督ヲ受ク可シ  
煙草捌人ハ間稅司ヨリ煙草ヲ拂下ケ勅命ヲ以  
テ定メタル代價ニテ之ヲ衆人ニ賣捌ク可シ  
又詐欺ヲ以テ政府專賣ノ權ヲ害セシメナル爲  
メ嚴密ナル諸規則ヲ設ケタリ故ニ政府ニ於テ  
買入ル、外外國產ノ煙草ヲ外國ニ輸入スルヲ  
禁シ又官許ヲ受ケスニシテ煙草ヲ運輸スルヲ禁

シ若シ此規則ニ背ク時ハ運送用ノ器具車及ヒ  
其他ノ物件ヲ没入シ且ツ罰金ヲ科ス可シ  
許可ヲ得スニシテ煙草ヲ作り若クハ許可ヲ得シ  
製造所及ヒ賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ製シ若クハ  
之ヲ賣ル者ハ違警ノ罪ヲ以テ論シ巨款ノ罰金  
ヲ科シ其器具及ヒ煙草ハ之ヲ官ニ沒收ス

第二章 印紙

印紙ノ義意

印紙トハ政府ノ名ヲ以テ或ル摸形ヲ印出シタ  
ル所ノ紙ニシテ此紙ハ一定ノ寸法ヲ以テ官府



ニテ之ヲ製出シ特ニ許可ヲ得タル賣捌人ヨリ  
之ヲ人民ニ賣渡スナリ

寸法ニ從テ其價ヲ異ニスル印紙  
及ヒ金額ニ因リテ其高ヲ増ス可  
キ印紙

印紙ノ價ハ其寸法ニ從テ六十「ガ」ンチームヨリ  
三「フ」ランツ「ク」六十「ガ」ンチーム迄ノ差アリ故ニ之  
ヲ寸法ニ從テ其價ヲ異ニスル印紙ト云フ  
右ノ外金額ニ因テ其高ヲ増ス可キ印紙アリ此  
印紙ハ「ビ」エー「タ」オルトル「ル」為替手取及ヒ諸會社

ノ株式証券ヲ記スルニ用フ可キ者ニシテ之ヲ  
名ケテ金額ニ從ヒ其高ヲ増ス可キ印紙ト云フ  
而シテ其所以ハ證券面ノ金額ニ從ヒ其稅  
ノ多寡ヲ定ムルヲ以テナリ

印紙ヲ用フルノ規則及ヒ罰則

印紙ハ契約ノ証書又ハ證券ト為ス可キ書類ヲ  
記スルニ之ヲ用フ可シ

印紙ヲ用フル規則ニ背キタルノ罰ハ唯罰金ヲ  
科スルニ在リテ若シ印紙ヲ用ヒサル書類ヲ差  
出ス時ハ相互ノ印紙稅ノ外ニ更ニ其罰金ヲ科



スルナリ

印紙ニ非サル紙ニ記シタル契約書ト雖モ其効  
ヲ失スルニ非ス是レ印紙ヲ用フルノ規則ハ專  
ラ收税ノ主旨ニ基キ設ケタル者ニシテ証書ノ  
効ノ有無即チ其證書ノ法律ニ適シタルヤ否ニ  
差響ナキヲ以テナリ

然レ此為替手取及ヒ<sup>レ</sup>エータオールド<sup>ル</sup>ノ如キ  
ハ全ク特別ナリトス故ニ印紙ヲ用フルノ規則  
ニ背キシ時ハ右證書ノ効ノ有無ニ就キ重大ノ  
差響アリ但シ此事ハ後文別ニ之ヲ論セントス

印紙ノ製造及ヒ其賣捌方

印紙ノ製造及ヒ其賣捌方并ニ收税及ヒ罰金ノ  
取立方ハ大藏省ノ管屬タル記録税兼公有地管  
理司ノ任ニ在リトス  
一千八百七十一年間ノ印紙税ノ收入高ハ七千四  
百九十九萬九千<sup>一</sup>百<sup>一</sup>十<sup>一</sup>ナリ

第三款 骨牌紙

骨牌紙ノ製造及ヒ其發賣<sup>ル</sup>タル  
製造人及ヒ其小賣人ノ義務

骨牌紙ノ間税司ノ免許状ヲ有シタル者ニ非サレ



ハ之ヲ製スルヲ得ス且其製造人ハ先許状ヲ  
納ム可ク又其掛リ官吏ノ監督ヲ受ク可シ  
普通ノ骨牌ハ官府ヨリ供給スル所ノ紙ニシテ  
其鑿記ヲ印出シタル者ヲ用フルニ非サレハ之  
ヲ製スルヲ得ス然シテ此骨牌用紙ハ大藏卿  
規定シタル代價ヲ出シテ之ヲ求ム可ク且其  
製造税ハ製出シタル骨牌ノ各葉毎ニ之ヲ納ム  
可シ  
若シ製造人其官府ヨリ受取リタル用紙ノ全部  
ヲ既ニ用ヒ盡クシ又、其全部ノ現存スレ証ヲ

立ツルヲ得サル時ハ其不足セシ用紙ヲナレタ  
製造ニ用ヒシ時其当然納ム可キ税ノ二倍ヲ課  
セラル可シ  
骨牌ノ發賣モ亦其掛リ官署ノ免許ヲ得タル商  
ニ非サレハ之ヲ為スヲ得ス  
外國製ノ骨牌ヲ外國ニ輸入スルハ之ヲ禁ス  
右ノ諸規則ニ背ク者アル時ハ罰金ヲ科シ且許  
欺ヲ以テ製造發賣シ若クハ外國ヨリ輸入シタ  
ル骨牌ヲ官ニ没入シ又時アリテハ其犯人ヲ禁  
錮ノ刑ニ處ス可シ



各種火薬ノ製造及ヒ其發賣

若シ人民ヲシテ勝手ニ火薬ヲ製造發賣シ及ヒ之ヲ貯蓄スルノ自由ヲ得セシメタランニハ公治安ヲ妨害ス可キヲ是レ人々ノ容易ニ了解得ル所ニシテ火薬ノ製造及ヒ發賣ノ專權ヲ政府ニ歸セシ所以ノ如キハ固ヨリ其辨ヲ待ススシ瞭然タリ  
火薬ノ製造ハ政府ノ火薬製造所ニ非サレハ之ヲ為スヲ待ス

火薬ハ之ヲ分テ三種トス曰ク軍用火薬曰ク獵用火薬曰ク礦用火薬是レナリ

軍用火薬ノ製造ハ陸軍省ノ權内ニ在リテ獵用火薬及ヒ礦用火薬ノ製造及ヒ發賣ハ大藏省ノ權内ニ在リトス

軍用火薬ヲ發賣シ若クハ之ヲ貯蓄スルハ禁制タリ然レモ航海者ノ船用ニ供シ又ハ烽火製造人ノ業用ニ供スル為メ之ヲ買入ルハ此限りニ非ス

獵用火薬ト礦用火薬ハ商稅司ヨリ撰ニ



賣商人ヲシテ官府ヨリ規定シクル代價  
之ヲ賣賣セシム  
平民ハニヤロカラム以上ノ火薬ヲ貯蓄スル  
ヲ得ス若シ此規則ニ背ク者アレハ之ヲ懲治  
刑所ニ呼出シテ二年以下ノ禁錮ニ處シ且ツ多  
數ノ罰金ヲ科ス可シ  
千八百七十一年間ノ火薬ノ賣高ハ八百八十九  
萬二千<sup>一</sup>フランクナリ

第五款 貨幣

貨幣製造ニ政府ノ管預スル事

貨幣ヲシテ其不然ノ任ヲ充タサシメ以テ岳物  
交換ノ一器具タラシメンニハ其價格ノ的實ニ  
一見シテ之ヲ見分ケ得ルヲ緊要トス  
然ルニ若シ貨幣ノ製造自由ニシテ人々覽テ之  
ヲ為スカ如キニ至ラハ能ク右ノ要件ニ達スル  
ヲ得可キニ非ス是ヲ以テ政府其法ヲ設ケラ之  
ヲ保護スルニ非サレハ貨幣ノ流通ニ欲ク可ク  
ナル衆人ノ信任ヲ失スルニ至ル可シ是レ即チ  
政府ノ貨幣製造ニ管預スル所以ナリ

造幣場及ヒ造幣委員



貨幣ハ諸都府ニ設立シタル一種特別ノ製作場ニ於テ之ヲ製造シ其製作場ヲ名ケテ造幣場ト云フ

造幣場ニハ各長官一名ト貨幣検査官トヲ置ケ而シテ各造幣場ノ長官及ヒ副長官ハ勅命ヲ以テ之ヲ任シ其以下ノ属官ハ大藏卿之ヲ任シ此諸官吏ノ職掌ハ貨幣ノ重量ヲ判定シ其重量及ヒ製造方ノ定規ニ適シタルヤ否ヤヲ検査シ各造幣場内ノ事業ヲ監督シ且金銀ニ管スル作証法律ノ施行ヲ監視スルニ在リトス

造幣場ハ何レニ大藏省ノ管轄スル所ナリ

貨幣ノ廣造及ヒ其罰則

通用ノ貨幣ヲ廣造シ又ハ之ヲ變造スル者ハ重罪ノ犯ト為シ其金貨差ハ銀貨ニ係ルモノハ之ヲ銀貨ノ徒刑ニ處シ銅貨差クハ比ヨシ銀貨ノ徒刑ニ處ス<sup>此ニシ銅貨ニ係ル者ハ之ヲ有期ノ徒刑ニ處ス</sup>且金貨ニ付テ人ヲ欺クノ目的ヲ以テ貨幣ニ着色スルモノモ亦法律ノ禁スル所ニシテ之ヲ罰スルニハ懲治ノ刑<sup>前ノ刑</sup>ヲ以テシ<sup>刑</sup>六ヶ以上三年以下ノ禁錮ニ處ス



第六款 郵便

郵便事業ニ管スル制規

政府ニ有スル書信遞送ノ專權ヲ以テシタルハ  
往復文書ノ機密ヲ洩カ、ルト其送達ノ日限ヲ  
整正セシムルトヲ要スルニ在リ  
斯ノ重要ノ事務ヲ執行スルハ大藏省ノ所屬ト  
ル郵便司ノ管スル所ニシテ其本局（即チ已ニ在ルモ）  
ニハ長官一名ト其屬官數名アリ然シテ其各州  
ノ支局ニハ亦各其局務ヲ取扱フ局長一名ヲ置  
キ又其支局ノ分局ニ於テハ其地方ノ事務ヲ取

扱フ者ニ郵便物受取役一名ヲ置ク

郵便局ノ書簡、印刷物、商業ノ書類及ヒ小形輕量  
ノ見本物ヲ遞送シ且特定ノ成規ニ從テ金銀及  
ヒ証券ノ遞送ヲ為スルヲ禁ル

何人ニ限ラズ郵便ニ非ル方法ヲ以テ自カニ文  
書ヲ送達シ又ハ之ヲ送達セシムルヲ禁止ス  
是レ蓋シ政府ノ專權ヲ保護スル為メナリ  
若シ此禁ヲ犯ス者アレハ而五ナ「（以下）」以上  
三百「（以下）」以下ノ罰金ヲ科ス

書簡稅及ヒ郵便稅ノ拂方



前文ニ掲ケタル諸物ヲ郵便ヲ以テ運送スルニ  
付テハ各管其郵便税ヲ課ス但シ書簡ニ就テハ  
其重量ニ從テ其税ヲ異ニシ又差出人ヨリ之ヲ  
拂フト請取人ヨリ之ヲ拂フトニ因テ其税ヲ異  
ニス 但シ差出人ヨリ其税ヲ拂フトタル  
書簡ヲ差出人ヨリ其税ヲ拂フトタル  
重量ナガラム 但シ百里内ニ在ラスル  
書簡ニ就テハ十五ガラスル 以下ノ  
書簡ヲ同一ノ郵便分局区内ニ住スル人ニ送り  
其受取人ヨリ郵便税ヲ拂フ可キ郵便先拂ノ書  
簡時ハ其税ヲ二十五サンチムトシ甲ノ郵便  
区ヨリ乙ノ郵便区ニ送ル可キ書簡ナレハ其税

ヲ四十サンチムトス但シ十カラム 又百里内  
ナレハ 以上ノ書簡ハ其量ニ準シテ其税ヲ増ス  
可シ  
同上ノ場合ニ於ケル郵便拂濟ノ書簡ニ就テハ  
十五サンチムトニ十五サンチムトニ別ツ  
郵便拂濟トハ郵便切手ヲ書簡ニ貼付スルニ在  
リ  
郵便切手ハ官府ニテ之ヲ製シ其概リ官吏ヨリ  
之ヲ人民ニ拂出ス者ニシテ其代價各異ナリ其  
最小ノ切手ハ一サンチムニシテ最大ノ切手



ハ從來ハ十「ガ」ン「キ」ムナリシカ、軌道ニ至リ官  
府更ニ高價ノ印紙ヲ製造シテユ「フ」ラニ「ク」ニ至  
ル者アリ

届ケ先キ又ハ其重量ニ就テ不足ノ郵便切手ヲ  
貼付シタル書簡ハ之ヲ郵便税本濟ノ書簡ト向  
一ニ旨做シテ其税ヲ算シ差出人ノ貼付シタル  
切手ノ代價ヲ引去リ其不足ノ分ハ請取人ニ拂  
ハシム可シ例ハ差出人ニ十「五」ガ「ン」キ「ム」ノ  
郵便切手ヲ貼付ス可キニ十「五」ガ「ン」キ「ム」ノ切  
手ヲ貼付シタル時ノ如キハ請取人ヨリ猶ホ二

十「五」ガ「ン」キ「ム」ノ郵便ヲ拂フ可キカ如シ是レ  
郵便税本濟ノ書簡ハ實ニ四十「ガ」ン「キ」ムノ税  
ヲ拂フ可キヲ以テナリ

一旦貼用セシ郵便切手ヲ再ヒ用ヒタル者アレ  
ハ五十「ガ」ン「キ」ム以上十「ガ」ン「キ」ム以下ノ罰金ヲ  
科シ其再犯以上ハ之ヲ禁錮ノ刑ニ處ス

印刷物、商業ノ書類及ヒハ形重量  
ノ見本物

印刷<sup>物</sup>、商業ノ書類及ヒハ形重量ノ見本物ノ郵便税  
ハ其重量ヲ以テ之ヲ輕レハ書簡税ヨリ之ニ低



下ナル者トス但シ此等ノ諸物ヲ低税ニ  
セシト欲スル者ハ預メ其税ヲ納ム可シ  
斯ク税ノ低下ナルカ為ニ許欺ヲ為ス者アルヲ  
恐レ印刷物、高業書類及ヒ見本物ノ中ニハ一坊  
書簡ヲ挿入スルヲ禁シ若シ此禁ニ背ク者アレ  
ハ百五十「フ」以下三百「フ」以上ノ罰  
金ヲ科ス

別段仕立書簡、金高ヲ明記セシテ  
封入書簡及ヒ金銀貨ノ遞送

郵便事務ニ關スル事付テ論シヨル為メ今茲ニ

金銀貨及ヒ金銀証券ノ遞送ニ管スル條目ヲ記  
セントス

別段仕立書簡トハ証券又ハ手形類ヲ封入シテ  
ル書簡ヲ云フ而シテ此書簡ハ増税ヲ拂フベキ  
者トス

此類ノ書簡ハ郵便税ヲ拂ヒ済シ且ツ別段ノ封  
印ヲ為レタル上ニテ差出人ヨリ之ヲ郵便局ニ  
差出ス可シ但シ郵便局ハ其書簡ノ請取書ヲ差  
出人ニ渡ス可ク又其請取人ハ請取ヲ郵便局ニ  
差出シ引替ニ為シ之ヲ受取ル可シ



右書簡紛先ノ場合ニ於テハ郵便局五十フラン  
以上ノ高ニ至ル迄其責ニ任ス可シ

銀行ノ手形及ヒ其他持主ニ金高ヲ拂フ可キ手  
形美ニ就テハ特別ノ差立込アリ

銀行ノ手形ヲ郵送セント欲スル者ハ其書簡ヲ  
別段仕立ト為シテ其税ヲ拂ヒ且其封皮面ニ手

形ノ金高ヲ明記ス可シ但シ其金高ハ二千フラン  
以上トシテ超工可カラス

手形ヲ封入シタル書簡ヲ紛先シタル時ハ郵便  
局其金額ノ責ニ任ス可シ然レモ抗拒ス可カラ

サル災害ニ遭ヒ例ハ暴風ニテ破船シタル時  
ノ如キハ此限ニ非ス

右ノ手形ヲ封入シタル書簡差出人ハ定税五十  
フランノ外其手形ノ金高ニ應レ百フラン

以上ハ其端数毎ニ二十フランノ比例税ヲ  
拂フ可シ

書簡中ニ宝石及ヒ金銀細工物ヲ封入シ或ハ別  
段仕立ノ書簡ニ非サル者ニ銀行ノ手形及ヒ之

ニ均シキ手形ヲ封入スルハ禁止タリ若シ之ニ  
昔ク者アレハ五十フラン以上五百フラン



以下ノ罰金ヲ科ス

又郵便局ハ正金ノ遞送ヲ為ス此場合ニ於テハ  
郵便局其金ヲ請取リ其請取ヲ取テ差出人ニ渡  
シ差出人之ヲ受取人ニ送レハ受取人之ヲ外國  
各所ヲ郵便局ニ差出シテ其金ヲ受取ル可シ  
正金遞送税ハ其金高ノ百ニ二ノ割合ナリトス

通信條約

諸外國ト通信ヲ交換シ其遞送税ヲ定ムルニハ  
通信條約ト名クル特別ノ條約ヲ以テス然シテ  
其條約中ニハ金銀貨ヲ外國ヨリ外國ニ遞送レ

或ハ外國ヨリ佛國ニ遞送スル規則ヲ定ムル者  
アリ

郵便局ノ收入

千八百七十一年郵便局ノ收入ハ八千九百八十  
〇萬一千七百九十ニシテ其内八千七百九十二  
萬八千七百九十ニ書簡税トシ一百六十八萬三千  
アラシクテ金銀貨ノ遞送税トス  
千八百七十一年ニ議定レタル法律ヲ以テ郵便  
税ヲ増加シタリト雖モ右ノ実額ヲ以テ文書往  
復ノ盛ナルヲ證スルニ足レリ



第七款 電信

私用ノ電信ノ了及ヒ電信税

電信線ハ政府若クハ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタ  
ル者ニ非ガレハ之ヲ設クル了得ス且ツ電信  
線ノ取扱ヲ為ス口特リ政府ノ特權ニ在リトス  
電信ハ帝ニ政府ノ用ニ供スルノミナラス人民  
モ亦官府ニ依頼スレハ此法ニ由リテ通信スル  
了得可シ然レモ官府ハ人民ノ電信ニ依リ私  
用ヲ達スルカ為メ其責ニ任スル了ナシ  
電信局ハ内務省ノ管轄スル所ナリ

電信ヲ頼マント欲スル者ハ書信ヲ認メ且自  
ノ額印ヲ為シテ之ヲ電信局ニ差出ス可シ

又電信ヲ通スルニハ其語數ニ應シテ電信料ヲ  
出ス可シ其電信料ハ一語以上ニ十語以下ニシ  
テ同州内ニ達ス可キ者ナレハ五サシム  
トシ他州ニ達ス可キ者ナレハ一ラシムトシ  
然シテ巴里府内ニ達スル電信料ハ五サシム  
トシトス但シニ十字以上ハ十字毎ニ又ハ其端  
數毎ニ定税ノ半額ヲ増ス可キ者トス  
數字ヲ以テ記シタル書信及ヒラウトグ  
ラフ



ト名ケル電信器械ニテ通スル書信ニ付、電信料ノ如キハ特ニ其定則アリ。仏國ヨリ外國ニ通シ若クハ外國ヨリ仏國ニ通スル電信ノ規則及ヒ其税ハ交際條約ヲ以テ之ヲ定ム。

#### 私用電信ノ進歩

人氏ニ此フルニ電信ヲ私用ニ供スルノ權ヲ以テセシメ、千八百五十一年ニ在リテ此時ヨリ以テ電信ノ往復着ク増加シタリ且更ニ電信弓ヲ増置シ隨テ其電信料ノ低下トナリシニ因リ、

易ク電信ヲ通スルノ便ヲ得タリ然レモ私用電信ハ金價ノ如ク大蔵省ノ歳入ヲ補フ者ニ非ズ。千八百五十一年ニ於テハ電信ニ由テ往復セシ私用書信ノ數凡ソ九千ナリシカモ今ニ於テハ少クモ二百萬乃至三百萬ニ下ラス。私用電信税ノ收入ハ其初メ僅少ナリシカモ今ニ於テハ六百萬フランクヲ超ユルニ至レリ。

#### 第四章

特殊ノ工業製作ヲ行フニ管ス

#### ル規則

特殊ノ工業製作ノ區別



本章中ニ於テ論述ス可キ工業製作ハ之ヲ行フ  
ノ權專ラ政府ニ在リテ人民之ヲ行フコトヲ禁シ  
タル所ノ者ニ非ス唯一定ノ成規ヲ履行ス可キ  
ノミニシテ其中或ハ政府ノ許可ヲ得サレハ之  
ヲ為スコトヲ得可カラサル者アリテ例ヘハ武器  
製造、印刷及ヒ書籍ノ業ノ如キ即チ是レナリ  
又其他ノ工業製作ハ特別ナル規則ニ循ヒ之ヲ  
為シ得可キモノアリテ例ヘハ金銀ノ細工ヲ為  
シ及ヒ其細工物ヲ賣拂フカ如キハ即チ是レナ  
リ

第一款 武器製作ノ業

武器製作ニ必要ナル許可  
仙國或ハ外國兵隊ノ用ニ供シ若クハ軍用ニ適  
シタリト認めラレタル器具ヲ以テ武器ト為ス  
可シ  
内國借用ノ武器ノ製作ハ官位武器製作所ニ限  
ルヲ以テ其定則ト為スト雖モ外國ニ輸出スル  
武器ハ陸軍卿ノ許可ヲ得レハ何人ニ限ラス之  
ヲ製作シ若クハ之ヲ賣拂フコトヲ得可シ  
許可ヲ得タル製作人ハ官費ヲ以テ仙國兵隊供



用ノ為メ陸軍卿ヨリ命シタル註文ノ武器ヲ製  
作スルヲ得可シ

許可ヲ得スシテ武器ヲ製作シ若クハ之ヲ賣拵  
フ者ハ十六「フ」ラング以上十「フ」ラング以下ノ罰  
金ヲ科セラレ一月以上二年以下ノ禁錮ニ處セ  
ラレ且其法ニ背キテ製作シ若クハ賣拵フタル  
武器官ニ没入セラル可シ

右ノ如ク武器ヲ所有スル者モ亦罰金ヲ科セラ  
レ禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二款 印刷及ヒ書肆ノ業

印刷及ヒ書肆ノ業ニ關スル特別

ノ法則

世ノ風俗又ハ治安ニ害タル書ヲ印刷シ若クハ  
之ヲ發賣シ是レリ為メ巨害ヲ生スルヲ有ルカ  
故ニ印刷及ヒ書肆ノ業ニ就テハ嚴重ナル規則  
ヲ設クルヲ以テ緊要ナリトス

印刷人ノ定負及ヒ其免許狀ノ丁

印刷人ノ員數ハ每州之ヲ限定シ巴里ニ於テハ  
其人員ヲ八十名ト定ム

印刷ノ業ヲ營マント欲スル者ハ内務卿ノ免許



状ヲ受ク可ク其免許状ハ願人ノ品行及ヒ能力  
ヲ取調タル上ニテ其フ可キ者トス  
免許状ハ本人一身ニ止リテ之ヲ人ニ譲リ渡シ  
若クハ之ヲ貸渡スルヲ得ス又其免許状ハ之ヲ  
受ケタル地方外ニ通用ス可ラサル者トス  
自己ノ營業ニ関スル法律及ヒ規則ヲ犯シタル  
印刷人ノ罰ハ其免許状ヲ取上ケ且舊業ヲ申渡  
スニ在リトス  
又免許状ヲ所持セズシテ印刷ノ業ヲ為シタル  
者ハ一萬<sup>円</sup>ヲ罰金<sup>トシ</sup>科セラレ且ツ六ヶ月

ノ禁錮ニ處セラレ可シ

官府ハ當ニ印刷人ノ業体上ヲ監督スルノ權アリ  
是レ違ヒ必ス免許状ヲ受ク可キ印刷人ノ義務  
アルト其免許状ヲ取トルヲ得可キ官府ノ  
権カアルトニ基ク行ハリ

印刷人特別ノ義務

印刷人ノ特ニ遵守ス可キ義務數ケアリ即チ左  
ノ如シ

第一 一箇ノ簿冊ヲ備ヘ置キ日附ノ順序ニ  
從テ之ニ新ニ印刷ス可キ書、標題、葉數、冊



数、部数、及ヒ製本ノ大サヲ記ス可キ事

第二 新ニ書ヲ刷出スル前ニ其旨ヲ届出ツ  
可キ事但シ巴里ニ於テハ之ヲ内務省ニ届  
ケ其他ノ諸州ニ於テハ州廳ノ書記局ニ届  
出ツ可シ

第三 出版ノ書ヲ公ケニシ之ヲ發賣スルニ  
ハ前以テ納本ニ部ヲ内務省若クハ州廳ノ  
書記局ニ差出ス可ク又其印行ノ書、政書若  
クハ國家經濟上ノ事ヲ記シタル者ニシテ  
十葉以下ノ小冊子タル時ハ右ノ外其納本

一部ヲ檢査局ニ差出ス可キ事

第四 印行書ノ各本ニハ何レモ印刷人ノ姓  
名及ヒ住所ヲ記載ス可キ事

右ノ義務ヲ守テサル者ハ之ヲ罰スルニ罰金ヲ  
以ラス

印刷人ハ其印行セント欲スル書ノ點檢ニ勉メ  
テ注意ス可シ何トナレハ若シ否ラスシテ發行  
シタル書中ニ著述ノ罪犯ト為ル可キ事アレハ  
印刷人其罪ニ坐ス可シ

此ニ印刷人若シ其情ヲ知リテ世ノ品行又ハ風



俗ニ害下ル書ヲ發行シタル時ハ其著述者ト共ニ罰金及ヒ禁錮ニ處セラル可シ  
又政事上ニ關スル新聞紙若クハ定期刊行ノ書ヲ刷出スル者モ亦新聞發行條規ヲ履行セザレハ其罪ヲ受ケ相与ノ罰ニ處セラル可シ

書肆營業書肆ノ免許狀及ヒ書肆營業人ノ義務

書肆營業人モ亦其免許狀ヲ受ク可キヲ印刷人ニ施ケルト同一ナリ只其人員ニ定限ナシ  
免許狀ヲ受ケスシテ書肆ノ業ヲ営ム者ハ一月

以上二年以下ノ禁錮ニ處シ百フランク以上二千フランク以下ノ罰金ヲ科ス

書肆營業人ハ印刷人ノ姓名ヲ載セサル書冊ヲ發賣シ若クハ之ヲ所持ス可ラス又其發賣シタル書中ニ著述者ノ罪犯トナル可キヲアレハ書肆營業人其罰ニ坐セラル可シ

第三款 金銀ノ細工及ヒ其細工物ノ發賣

金銀細工ノ保証並ニ其製作人及ヒ商人ノ義務



仙國ニ於テ製スル金銀ノ細工物ハ法律ヲ以テ  
規定シタル金量ヲ含有ス可キヲ法トス  
中ニ純金何分ヲ含  
有ス可キカ如シ  
細工物ハ

金ヲ用ヒタル細工物ニ就テハ其定量三種アリ  
即チ左ノ如シ

第一 細工物千分ニ付 純金九百二十分

第二 全 同 八百四十分

第三 全 同 七百五十分

又銀ヲ用ヒタル製作物ニ就テハ其定量二種アリ  
即チ左ノ如シ

第一 細工物千分ニ付 純銀九百五十分

第二 全 同 八百〇〇分

但シ金ヲ用ヒタル細工物ニ就テハ千分ノ三銀  
ヲ用ヒタル製作場ニ就テハ千分ノ五迄ハ其定  
量ニ充タケルモ亦之ヲ恕ス可キ者トス  
金銀細工物ノ金量ハ其検査ヲ為セシ上極印ヲ  
打テ之ヲ保証ス可ク又其極印ハ重量ノ多少ニ  
應シテ互ニ異ナル者トス  
金銀細工ノ製作人ハ預メ已レノ姓名ヲ州廳及  
ヒ其住所ノ邑廳ニ届ケ置ク可シ



同上ノ製作人ハ其細工物ニ列入ス可キ刻記（但シ其前ニ納メ置ク可キ者トス）ヲ所持ス可キ又其細工物ハ其成就ノ前ニ之ヲ重量検査局ニ差出シ其検査ヲ受ケテ其極印稅受ケ可シ但シ重量ノ検査ヲ受レ特ハ係証稅ト云ヘル一種ノ稅ヲ納ム可シ（此稅ハ之ヲ政府ニ納ムル者トス）

又同上ノ製作人及ヒ商人ハ一箇ノ簿冊（但シ此簿冊ニハ邑長之ニ番号ヲ附ケ且其檢印ヲ為ス可キモノトス）ヲ有シ之ニ賣買シタル所ノ金銀細工物ノ種類、負数、量目及ヒ其金銀ノ量ヲ記シ且其自カラ讓リ受ケタル所ノ賣

主ノ姓名住所ヲ記載ス可シ然シテ其細工物ヲ買入ル、ニハ自カラ熟知シタル人カ否ラサレハ係証人アル人ニ限ル可シ

右ノ條規ヲ設ケタル主旨ハ金銀細工物商人ニ賣出シタル物品ノ竊盜物タリシ時司法警察官ヲシテ之ヲ搜索シ易カラシムルノ便ヲ謀ルニ在リトス

金銀細工物ノ商人ハ自カラ物品ヲ賣渡シタル人即チ其買主ニ勅定書ヲ渡ス可キ其勅定書ニハ自己ノ調印ヲ為シ且ツ其賣渡シタル金銀細



工物ノ量目、形状、及び其金銀ノ量ト細ニ新古ノ別トヲ記ス可シ

金銀細工物ノ製作人及ビ商人ハ官ノ監督ヲ受ケ若シ官ヨリ定メタル所ノ義務ヲ守ラザル時ハ多数ノ罰金ヲ科セラレ可シ

金銀細工物ノ保証ニ當スル事務ハ副税司ノ掌ル所ナリ

### 第五章 銀行貸庫及ビ糶賣場

銀行、貸庫及ビ糶賣場ノ大要

商人ヲシテ其一己ノ力ヲ以テ働カシムル能ハ

サル資本ヲ働カシメ若クハ資本ノ蹙寒ヲ融通シテ其商業ノ便ヲ得セシメ以テ商人ニ世上ノ信任ヲ得セシムル如キハ即チ銀行、貸庫場及ビ糶賣場ノ益アル所以ナリ

右ノ主旨ニ基キ銀行ハ商人ノ金ヲ預カリ或ハ商人ニ金ヲ貸シ又ハ商人ノ為メ金ヲ受取り或ハ金ヲ拂出し又ハ商人ノ手形ノ未ダ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ割引ヲ為シテ之ヲ正金ニ引替へ以テ商人ニ金融ノ便利ヲ得セシム

又貸庫場ハ商品ヲ預リ商人ヲシテ持運ヒ、費



用ヲ首キ且其危険ヲ免レテ預ケタル低高品ヲ  
賣拂ヒ或ハ之ヲ抵当ト為シテ金ヲ借入ル、ノ  
便ヲ得セシム  
又糶賣場ハ往々商人ヲシテ其高品ヲ高價ニ賣  
拂フノ便ヲ得セシム  
右ノ設置ハ頗ル緊要ノ者タレハ逐次其事業ト  
其本務トヲ論スルノ際ニ於テ之ヲ解明セント  
ス

第一款 銀行

銀行事業ノ主旨

銀行ノ主旨ハ正金及ヒ商業上ノ手取ヲ取扱フ  
ニ在リテ此種類ノ商業ニ従事スル者ヲ名ケテ  
銀行商人ト云ヒ此商業ヲ行フ所ヲ名ケテ銀鋪  
ト云銀行商人ノ従事スル事業ニ數箇アリ今其  
其事業中ノ重要ナル者ヲ掲ルヲ以テ述レリト  
ス  
銀行商人ハ各人ノ金ヲ預カリ其預ケ主ノ為メ  
受取及ヒ拂渡シヲ為シ預ケ主ヲシテ其預ケ金  
ノ額ニ至ルマテ銀鋪ニ對シ金高受取ヲ求ムル  
ノ權ヲ得セシメ証券ヲ引与ニシテ金ヲ貸出シ



為替手形或ハ受合ヲ出シ此手形ヲ所持スル者  
ヲシテ隔リタル地方ニ於テ其金高ヲ受取ルヲ  
得セシメ且未タ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ割  
引ヲ為シテビエータオールドル及ヒ為替手形ヲ  
正金ニ引替フル等ヲ以テ其事業ト為ス

銀行ノ有益

銀行ノ世ニ利益アル條目ヲ掲クルニ例スル  
ヨリ金ヲ預カリテ以テ不殖ニ止ル可キ金ヲ殖  
サシメ又時アリテ其預ケ主ニ利子ヲ拂ヒ其預  
リ金ヲ以テ商業又ハ工業ノ資本ト為シ利益ヲ

得ルカ如ク又未タ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ  
割引ヲ為シテ手形ヲ正金ニ引替ユルニ因リ高  
人ヲシテ其所持セル手形ヲ以テ其受取期限ニ  
至ラサル前ニ金ヲ受取リテ之ヲ商業ニ用ヒ  
層々賣買ヲ為スヲ得セシムルヲ益アリ又  
為替手形及ヒ受合手形ヲ出スニ因リ各人ヲシ  
テ正金運送ノ費用ヲ省キ其不便又ハ危難ヲ免  
レシムルノ益アリトス

預金銀行及ヒ融通銀行

銀行ハ其事業ノ性質ニ因テ之ヲ觀レハ預金銀



行ト融通銀行トノ二種アリ  
預金銀行ハ金ヲ預カルフヲ以テ其本務ト爲シ  
預リ金ハ之ヲ帳簿ニ記シ其預ケ主ヲシテ其金  
高ノ渡方ヲ求ムルノ權ヲ得セシム  
預ケ主ハ自ラ其預ケ金ヲ取戻シ或ハ其權カヲ  
他人ニ讓リ已レニ代リテ其金ヲ受取ラシムル  
ヲ得可シ  
又其讓渡シテ受クル者モ亦同シク銀行ニ預ケ  
金アル時ハ其讓渡人ノ預ケ金ヲ轉シテ其讓受  
人ノ預ケ金ノ中ニ加フルニテ其手流ヲ成

就シタリトス  
右ノ所爲ハ即チ甲ノ預ケ金ヲ乙ノ預ケ金ニ轉  
シ且其由ノ帳簿ニ記入スルニ在リテ之ヲ振替  
ビールト云フ是レ預金銀行ヲ稱スルニ往々振  
替銀行ノ名ヲ以テスル所以ナリ  
又融通銀行ハ未タ拂期限ニ至ラサル前ト雖モ  
割引ヲ爲シテ手取ヲ正金ニ引替ヘ爲替手取及  
ビトビエータオールドルヲ買入レ其受取リシ手形  
ニ代リテ手取ヲ發行スル等ヲ以テ其業トス  
但シ此手形ハ之ヲ名ケテ銀行ノ手取ト云ヒ



何人ヲ論セス其持主ニ金高ヲ拂フ可キ者ニ  
 シテ哈モ貨幣ト均シク人々相傳ヘテ以テ融  
 通シ且ツ之ヲ發行セシ銀行ニ於テハ何時ニ  
 テモ正金ニ引換ユ可キ者トス  
 銀行ノ予形ハ世間ノ融通ニ供スル者ナルカ故  
 ニ之ヲ發出レタル銀行ノ資本充分確實ナレハ  
 其予形ハ貨幣ノ本務ヲ為シテ正金ノ不足ヲ補  
 フ者タリ  
 此銀行ハ其予形ヲ世間ニ流通セシムルヲ以テ  
 之ヲ称シテ融通銀行一名ニ銀行ト云フ

新ク銀行ハ之ヲ別テ預金ニ行ト融通銀行トノ  
 ニ種ト為スト雖モ實際ニ於テハ判然タル區  
 別ナキ者ト知レ可シ  
 銀行中ニハ唯金ヲ預アルノミニ非スシテ他  
 事業テ形證券類ヲ正金ニ引替ユルヲ為シ  
 行フ者アリ然レ時ハ預金銀行ト割引銀行ト  
 兼ヌル者ナリト雖モ總テ銀行ハ予形ヲ發行ス  
 可カラサルヲ定則ト為スニ因リ之ヲ融通銀行  
 ト云フ可ラス

私立銀行及ヒ公立銀行



銀行ハ又之ヲ別テ私立ト公立トノ二種ト為ス  
但シ此二者ノ從事スル事業ノ本性ニ就テハ互  
ニ同一ノ者ナリト雖モ唯其異ナル所ハ公立銀  
行ハ政府ノ許可ヲ得且其監督ヲ受ケ巨大ノ資  
本金ヲ聚合シテ以テ設立シタルニ因リ大ニ世  
人ノ信任ヲ待タル者ナレト私立銀行ハ之ニ比  
スレハ其本<sup>資</sup>本モ少ク其事業ノ範圍モ自カラズ  
小ナルヲ常ト為スニ在ルノミ  
銀行ニ私立ト公立トノ別ヲ為セシハ大ニ我カ  
添削上ニ關係アル事ニシ  
例ハ手形ヲ發行

スルノ權ハ政府ヨリ其許可ヲ得タル特立ノ銀  
行ニ限ルカ如シ蓋シ此規則ヲ設ケタル主旨ハ  
苟モ貨幣ニ均シキ手形ヲ流通セシムルノ權ハ  
大ニ資本ニ富ニ或ハ理財ノ通ニ巧妙ナルカ  
ノ十分ノ保證アル銀行ニ非サレハ之ヲ有セシ  
ム可ラス若シ然ラサル時ハ大不便ヲ生ス可キ  
ヲ恐アルニ依レリ

國立銀行ノ特權

各種ノ銀行ニ於テ信據保證ノ大小ヲ問ハス手  
形ヲ發行シテ之ヲ流通セシムル時ハ大ニ紛亂



ヲ生ス可キニ因リテ私銀行ノ權ヲ一ニ歸ス可  
キノ要ヲ見出セリ依テ當今ハ此權ヲ特ニ國立  
銀行ノミニ歸スルヲ定メタリ  
故ニ差出シ次第持主ニ正金ト引替エ可キ形  
ヲ發行スルハ方今ハ國立銀行ノミニ限レリ  
千八百四十八年前ニ在テハ州立銀行ト云ヘル  
者アリテ各自特立シテ政府ノ許可ヲ受ケ其  
形ヲ發行シタリシカ千八百四十八年ニ至リテ  
州立銀行ノ權ヲ廢シテ之ヲ國立銀行ニ合シ其  
名ヲ改メテ國立銀行支鋪ト爲シテ以テ國立

銀行ノ特權始テ完全スルヲ及ボリ蓋シ此特權  
ハ共和政治立國第十一年ニ設ケタル者ニシテ  
以後十五ヶ年ヲ以テ其期限ト爲セシカ其後數  
回其期限ヲ延シ千八百五十七年更ニ之ヲ延期  
シテ千八百五十七年十二月三十一日ニ至ラシ  
メタリ

國立銀行内部ノ制規

前文既ニ國立銀行ノ概畧ヲ記シタルヲ以テ今  
將ニ其銀行内部ノ制規ト其殊ニ重要ナル事業  
トヲ掲ケントス



国立銀行ハ政府ノ許可ヲ受ケ且株敷ヲ以テ募  
リタル資本金ニ由テ設ケタル所ノ無名會社ナ  
リトス

国立銀行ニハ政府ヨリ其目代トシテ出ス所ノ  
官吏三名即チ回長ノ選任シタル総長一名副長  
二名アリテ銀行ノ事務ヲ取扱ヒ其外總會議（最  
多ノ株敷ヲ有スル株主ニ  
百名ヨリ成レルモノトスニ於テ選任シタル幹  
事十五名ト検査役三名アリテ其事務ニ管預ス  
幹事及ヒ検査役ハ常ニ相合シテ銀行會議ヲ為  
シ総長若クハ副長之ニ上席ス然レテ国立銀行

ノ事業ニ管スル諸事ハ皆此會議ニ於テ之ヲ決  
ス可シト雖モ其議定ハ総長ノ許諾ヲ得其鈐印  
ヲ受クルニ非サレハ之ヲ施行ス可ラス

総長ハ右銀行會議ノ議定ヲ施行シ或ハ国立銀  
行ノ名ヲ以テ諸證書ヲ記シ或ハ国立銀行ニ管  
スル許諾ヲ為スノ權アリ故ニ之ヲ概言スレハ  
銀行會議ハ議政權ヲ有シ総長ハ行政權ヲ有ス  
ル者タリ

毎年株主ノ總會議ヲ開キ総長之ニ上席シテ前  
年間取扱フタル事務ノ報告ヲ為シ且其總會議



ニ於テ幹事及ヒ検査役ヲ更迭ス可シ又銀行規  
則改正ノ如キ重大ナル處置ヲ為ス可キ時ニ与  
テハ臨時ニ總會議ヲ開ク可ル可シ

### 国立銀行ノ事業

国立銀行ハ金銀貨幣及ヒ国債証券或ハ鉄道株  
敷等ノ如キ証券形類ヲ預リテ其手数料ヲ受  
取リ又金銀地金及ヒ金剛石ヲ預カルヲ以テ其  
業ト為ス

又国立銀行ハ商人ノ為メ金高ノ受取拂渡ヲ引  
受クルヲアリ故ニ国立銀行ト此類ノ約ヲ結ビ

商人ノ之カ為メ其金ヲ銀行ニ入レ置キ入用ノ  
時ハ銀行ヨリ本人ニ代リテ其拂方ヲ為シ又本  
人ノ請取ル可キ手取及ヒ勘定書ハ之ヲ銀行ニ  
預リ置クベシ

又国立銀行ハ国債証券鉄道株敷巴里府債証券  
等ヲ抵与ニ取リ金ヲ貸出スベシ但シ此等ノ引  
与物ニ就テハ貸借リハ其期限甚ク短クシテ長  
キモ三ヶ月間ニ其返償ヲ為ス可キ者トス

右貸金ノ引与トシテ国立銀行ニ受取リタル証  
書ノ時價ハ商人集會場ノ相場ニ因リテ時ニ下







名幹事四名及ヒ割引拂リ評議役中ノ三名ヨリ  
成レル者ニシテ又其評議役トハ巴里府内ニ於  
テ高業ヲ行フ国立銀行ノ株主中ヨリ銀行検査  
役ノ撰任シタル者十二名ヲ以テ其職ニ充ツル  
者トス  
割引拂掛リ役ハ預メ充分ノ身元アル商人ノ名  
簿ヲ作り置キテ其者ノ記名調印アル手紙ナシ  
ハ其拂期日ニ至ラサルモ割引拂ヲ為シ得ベキ  
ヲ定ム可シ  
拂期日前ニ割引拂ヲ為シタル手紙ハ其拂期日

ニ至レハ之ヲ与然其手紙ノ金高ヲ拂フ可キ者  
ニ渡ス可シ若シ其者之ヲ拂ハサル時ハ国立銀  
行ニ割引拂ヲ頼ミシ者ヲシテ直ニ之ヲ償還セ  
シム可シ  
拂期日ニ至ラサル手紙ノ割引拂ノ相場ハ地方  
ニ因リテ相同シカラズ時アリラハ白ニ六ノ割  
合ヲ越エルトアリ

国立銀行ノ手紙

国立銀行ハ他ヨリ手紙類ヲ受取ルニ代ハ又自  
カラ手紙發行ス然シテ此手紙ハ上文ニ述ハタ



ル如ク人々相傳ヘテ融通ヲ為シ常ニ正金ニ引替エバキ者ナルカ故ニ国立銀行ハ何時ニテモ其年秋引替ニテ正金ヲ拂フベキノ義務アリトス  
国立銀行ノ年秋ニハ五十「フラン」グ百「フラン」クニ百「フラン」ク五百「フラン」ク千「フラン」ク五千「フラン」クノ六種アリ  
右各種ノ年秋發行ノ金額ハ国立銀行ノ役員會議ニテ之ヲ規定スル者ニシテ現今ハ二十億「フラン」クニ昇レリ

国立銀行ノ年秋ハ其資本金ト預リ年秋トヲ以テ之カ概与トナシ世人ノ信任ニ由ラ哈モ貨幣ノ如ク普ク世間ニ流通スル者トス然レモ若シ債主此年秋ヲ受取ル「ラ」好マサレハ負債者ハ強ヒテ銀行ノ年秋ヲ受取ラシムルヲ得ス必ス正金ヲ以テ拂フ可キヲ法別トス  
国立銀行ハ衆庶ニ其事業ヲ廣告シ且ツ其事務ノ景況ヲ明白ナラシムル為メ各週毎ニ其有スル所ノ年秋及ヒ貯金ノ高並ニ其流通セル年秋ノ高ヲ記セシ明細書ヲ公布ス可シ



國立銀行ノ支鋪

國立銀行ハ最モ繁華ナル貿易場ニ於テ其支鋪ヲ設ケタリ又今八白五十七年國立銀行ノ特權ヲ延期シタル法律ニ依レハ向後十年ノ期限内ニ未ダ支鋪ヲ設ケサル諸州ニ於テモ更ニ支鋪ヲ設ク可キヲ定メタリ

各支鋪ノ事務ハ國長ノ命シタル社長ト一箇ノ

議會

但シ此議會ハ國立銀行ノ本鋪ノ役員會議ニ於テ之ヲ擔任シ常ニ本鋪ノ監

名ヨリ成レルトニテ之ヲ擔任シ常ニ本鋪ノ監

督ヲ受ク可シ

各支鋪ノ事業モ亦巴里ニ在ル本鋪ト同一ナリ

トス但シ午取ノ製造及ヒ其發行ニ係ル事務ヲ

統括スル如キハ特リ巴里ノ本鋪ニ限ル所ナリ

第二款

貸庫場及ヒ糶賣場

今八白五十八年二月ニ

十八日法律

貸庫場ノ義意

貸庫場ハ政府ノ許可ヲ受ケテ設立シタル者ニシテ其目的ハ生品、製作品ノ別ナク商品ヲ預カ

ルニ在リ  
貸庫場ハ同上諸物品ノ預ケ主ニ其証書

下ニ詳カナリ



ヲ渡スベシ然シテ此證書ハ迅速容易ニ此人ヨ  
リ彼人ニ轉スルヲ得可キカ故ニ諸物品ノ預ケ  
主ハ別ニ其物品ヲ取出スノ煩勞ト費用トヲ要  
セスシテ或ハ之ヲ質入レ或ハ之ヲ賣却スル為  
メ此證書ヲ用フレヲ得可シ

預ケ主ニ渡ス可キ受取證書及ヒ  
預リ證書

物品ノ預ケ主ニハ貸庫場ヨリ二通ノ證書ヲ渡  
ス可シ其一ヲ受取証ツレセビト云ヒ又一ヲ預リ  
証書ツレセビト云フ然シテ此ニ通ノ證

書ニハ預ケ主ノ姓名、職業、住所ヲ記シ且其物品  
ノ種類及ヒ其取状、價値ヲ定ムルニ必須ナル諸  
件ヲ記ス可シ

受取證書及ヒ預リ證書ノ轉移並  
ニ其證書ノ効

受取證書ト預リ證書トハ預ケ主ノ時宜ニ因リ  
共ニ之ヲ他人ニ轉移シ或ハ別々ニ之ヲ轉移ス  
ルヲ得可キモノトス故ニ若シ預ケ主右ノ物  
品貸庫ニ預ケ置キヲ質ニ為シテ金ヲ借入レシ  
ト欲スル時ハ其預リ證書ヲ引離シ裏書ヲ為シ



テ之ヲ貸主ニ渡ス丁ヲ得可シ  
但シ裏書トハ手ノ裏面ニ文字ヲ記入スル丁ニシテ其式ハ下文ニ詳ナリ

預リ証書ノ裏書ハ貸主ニ其物品ニ付テ質取ノ權ヲ與フルカ故ニ其物品ヲ引取ニ為シテ貸金ノ償還ヲ得ルノ特權ヲ得セシム

若シ預ケ主未ダ右ノ物品ヲ質物ト為ス夕ノ其預リ証書ヲ他ニ轉セサル内ニ右物品ヲ賣却セント欲スル時ハ請取証書ト預リ証書トニ裏書ヲ為シテ共ニ之ヲ買主ニ渡ス可シ然レモ若シ預ケ主既ニ其物品ヲ質物ト為シ預リ証書ヲ貸

主ニ渡シタル時ハ唯請取証書ノミヲ持テルカ故ニ之レノミヲ買主ニ渡ス可シ

受取証書ト預リ証書トヲ裏書シ或ハ受取証書ノミノ裏書ヲ為ス時ハ共ニ物品ノ賣拂ヲ証スルノ効アリトス

請取証書ノ裏書ト預リ証書ノ裏書トニ就キ其効ノ差異アル丁左ノ如シ

請取証書ノ裏書ハ右物品ノ賣拂ヲ為シ又預リ証書ノ裏書ハ其裏書ヲ得タル者ニ質取ノ權ヲ得セシムル者トス



右ノ裏書ハ甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ト救回之ヲ為  
ス丁ヲ得可シ故ニ預リ証書又ハ請取証書ノ裏  
書ヲ得タル持主ハ再ヒ裏書ヲ為シテ之ヲ他人  
ニ轉移シ得可キニ因リ請取証書ト預リ証書ト  
ヲ以テ物品ヲ流通シテ之ヲ賣拂ヒ或ハ之ヲ質  
入ニ為ス丁ヲ得可シ

請取証書及ヒ預リ証書ノ裏書ヲ  
為ス法式

請取証書ノ三ノ裏書及ヒ請取証書ト預リ証書  
トノ裏書ヲ為ス法式ニ欠ク可ラサル條件ハ只

其証書ヲ渡ス者ノ其姓名ヲテ署シ且ツ年月日  
ヲ記スルニ在リトス

又請取証書ヲ添ヘサル預リ証書ノ裏書ヲ為ス  
ニハ右法式ノ外ニ其物品ヲ抵当ニシテ借入レ  
タル金額ニ関係セル文言ヲ加フルヲ要トス即  
チ右物品引当ニテ借入レタル元金及ヒ其利金  
ノ高ヲ記載シ且其償却期日ト其債主ノ姓名在職  
業住所ヲ記載ス可キカ如シ

其他預リ証書ノ第一回ノ讓受ケ人(即チ物品預  
ケ主ヨリ裏書ヲ得タル人)ハ貸庫場ノ簿冊ニ右



裏書ノ旨ヲ登記セシメ且其預リ証書ニハ貸庫  
場ノ簿冊ニ登記セシメタル旨ヲ記入スルヲ要  
トス

受取証書預リ証書兩通ノ持主及  
ヒ請取証書持主ノ權利

前文既ニ貸庫場ヨリ渡シタル証書即チ受取証書ト預リ証書トヲ以テ物品ヲ賣却又ハ質ト為ス手續ノ  
模様ト其証書轉移ノ法式トヲ説キタルニ因リ  
今又將ニ請取証書ト預リ証書トヲ共ニ保有シ  
或ハ唯請取証書ノミ又ハ預リ証書ノミヲ保有

スルニ就キ其持主ニ屬ス可キ權利如何ヲ説明  
セントス

法ニ適シタル裏書ニ由リテ請取証書ト預リ証  
書トヲ共ニ保有スル者ハ即チ其物品ノ所有者  
ナリ是レ請取証書ト預リ証書トノ裏書ヲ為ス  
ハ物品ノ賣却ヲ証スルノ効アレバナリ故ニ此  
証書兩通ノ持主ハ自其物貸庫場取到リテ其證  
書ニ通ト引替ニテ其物品ヲ請取ルヲ得ベシ  
然レテ預リ主ヨリ其物品賣却ノ時既ニ預リ証  
書ヲ他ニ渡シテ其物品ヲ質ニ為シタルニ因リ



其預り証書ヲ添へス唯其請取証書ノミヲ渡シ  
タル時ハ其請取証書ノ持主ハ之ヲ渡シタル者  
ケ即チ預ニ優り權利ヲ有スルヲ得ス故ニ其請  
取証書ノ持主ハ其預り証書ノ持主ニ曾テ預ケ  
主ノ即チ原素ノ其物品ヲ貸入シテ借り入レタル  
金額但シ其金額ハ預り証書ノ裏ヲ拂フヲ要  
ス

物品ヲ受出ス事

預り証書ヲ添へサル請取証書ノ持主ハ預々主  
ノ曾テ物品引占ニテ借入レタル金高ヲ全ク償

スヲ得可シ

請取証書又ハ預り証書ノ紛失

受取証書ノ持主若クハ預り証書ノ持主其証書  
ヲ紛失シタル時履行ス可キ成規ハ未タ之ヲ論  
定セサルヲ以テ今將ニ之ヲ論セントス  
請取証書ノ持主若シ其証書ヲ紛失シタル時ハ  
一定ノ成規ヲ履行シテ其寫ヲ請取ルヲ得可  
シ即チ一定ノ成規ヲ履行スルトハ其紛失ニタ  
ル請取証書ノ真ノ持主タルヲ証レ之ヲ証ス  
ルニハ其高業簿冊ヲ用フルヲ以テ通規トス又



其画ヲ受取ル<sub>レ</sub>フヲ許可スル高法裁判所ノ長官  
ノ命令書ヲ得且ツ保証ヲ立ルヲ要スル等ノ諸  
事ニ在リ然レテ其保証ハ或ハ預リ金役所<sub>ニ</sub>金  
高ヲ預ケ或ハ身元アル保証人ヲ立ルニ在リト  
ス  
預リ証書ノ持主若シ其証書ヲ紛失シタル時掌  
テ其証書ヲ証ト為シテ貸渡シタル金高ノ返却  
ヲ得ントスルニモ亦同上ノ成規ヲ履行スル<sub>レ</sub>  
ヲ要ス

多量ノ高品糶賣ニ就テノ要旨

却シテ其物品ヲ受出スニ非サレハ貸座場ヨリ  
物品ヲ引取ル<sub>レ</sub>フヲ得可カラス  
又時アリテハ請取証書ノ持主物品ヲ引取ラン  
ト欲スルト雖モ未タ其物品引与ニテ借入レタ  
ル金高ノ拂期日ニ至ラサル<sub>レ</sub>ト有リ然ル時ハ必  
シモ其拂期日ヲ待テ其償却ヲ為シ然レテ後其  
物品ヲ引取ル<sub>レ</sub>フヲ要セス故ニ若レ請取証書ノ  
持主其預リ証書ノ持主ヲ知り得サルカ或ハ之  
ヲ知り得タルモ拂期日ニ至ラサル前其物品引与  
ニテ借入レタル金高償却ノ<sub>レ</sub>トニ就キ預リ証書



持主ト協議セラル時ノ如キハ其借入金ノ元  
高、拂期日ニ至ル迄ノ利息トテ貸産場ニ預ケ  
置ク可シ

然ル時ハ請取証書ノ持主其物品ヲ貸出シ貸産  
場ヨリ其物品ヲ引取ルヲ得可シ

預リ証書持主ノ権

預リ証書ノ持主ハ其物品ニ就キ質取ノ特権ヲ  
有スル者トス故ニ若シ負債者ヨリ其償却期日  
ニ至リテ其金ヲ拂ハサル時ハ預リ証書ノ持主  
ハ負債者ニ要決ノ書ヲ送リテ其償還ヲ皆セザ

リシノ証ト為シ且其要決ノ書ヲ記シタル日ヨ  
リ八日後ニ至レハ商業世話人ニ依頼シ其物品  
ノ賣拂ニ取掛ラシムルヲ得可シ

然ル時預リ証書ノ持主ハ然テ、他ノ債主ニ先  
テ其物品賣拂ノ代價ヲ以テ己レノ貸高償還  
ニ充ツルヲ得可シ但シ物品入府税、海關税、及  
ヒ之ニ類似シタル諸税若クハ商業世話人ニ渡  
ス可キ手数料及ヒ貸産場ニ拂フ可キ敷敷ハ右  
預リ証書持主ノ権ニ先立テ其賣拂代價中ヨリ  
先ツ之ヲ引取ル可シ



右ノ年続キヲ以テ物品ヲ賣拂フト雖モ若シ其  
代償 猶ホ全ク預リ証書持主ノ貸高ヲ辨償ス  
ルニ足ラサル時ハ負債者及ヒ預リ証書ノ逐次  
裏書ヲ為シタル者ニ對シテ其不足ノ補償ヲ求  
ムルコトヲ得可シ

若シ預リ証書ノ持主要決ノ書ヲ記シタル日ヨ  
リ一ヶ月内ニ物品ノ賣拂ニ取掛ラサルカ若ク  
ハ物岳賣拂ノ日ヨリ或ル期限内（通例十日）ニ掌  
テ其証書ノ裏書ヲ為シタル者ニ對シテ不足ノ  
補償ヲ為ス可キ催促ヲ為サ、ル時ハ均シク其

裏書人ニ對シ補償ヲ責ムルノ權ヲ失フベシ  
預リ証書ノ持主右ノ權利ヲ失フハ中間在リ  
テ証書ノ裏書ヲ為シタル者ニ對スル時ノミニ  
限リテ假令其催促ヲ怠リシ時ト雖モ尚最初ノ  
負債主（即チ最初ノ裏書人）ニ對シテ其義務ヲ責ムルノ  
權利ヲ失ハサルハ誑者ノ恒ク注意スベキ所ナ  
リ  
以上陳述スル所ニ由テ之ヲ觀レハ預リ証書ハ  
尚書ニ似ノ性質ヲ有スル者タルヲ知ル可ク故  
ニ預リ証書ハ「ヒエーダオルドル」ニ均シキ者ナ



リト雖モ之ニ比スレハ物岳ヲ質ニ取リタル一  
種特別ノ保証アルモノトス可シ

商業上ノ形ヲ其拂期日前ト雖モ割引ヲ以テ正  
金ニ引替エル銀行(就中國立銀行)ニ於テハ存預  
リ証書ヲ商業上ノ手取ト看做シテ之ヲ受取リ  
且其預リ証書ノ特別ノ保証アルニ因リ本未回  
立銀行ニ於テハ三人ノ記名調印アル手取ニ非  
サレハ割引拂ヲ為サ、レ定則ナリト雖モ右預  
リ証書ニ限テハ二人ノ記名調印アレハ其拂期  
日ニ至ラサル前ト雖モ割引ヲ以テ正金ヲ拂渡

貸庫場ニ預ケ置キタル物岳ノ賣買取引ニ就キ  
論及セシ所ノ諸規則ハ其物岳ノ預ケ主ウシテ  
何時ニテモ容易ニ其物岳ヲ活用シ且之ヲ融通  
シテ商業上ノ需用ニ供シ又ハ契約ヲ履行スル  
為メ其物岳引当ニテ商業資本金ヲ借入ル、丁  
ヲ得セシムルヲ以テ其九目的ト為スニ在リテ  
今八百五十八年物岳ヲ多量ニ糶賣スルノ法ヲ  
設ケタルモ亦此主旨ニ基ク所ナリ蓋シ此事タ  
ルヤ其以前ハ障碍頗ル多ク尤抵通則外ノ率ニ  
シテ尚法裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ



為ス丁ヲ許サ、リシカ此年ニ至リ遂ニ之ヲ模  
擬シテ同年以後自由ニ之ヲ得ル丁ト為シタリ  
此糶賣ノ法ニ就キテハ其利益ニ様アリ即チ其  
一ハ賣主ニ取リテハ買主即チ入札人ノ競ヒニ  
由テ物品ノ價ヲ貴カラシムルニ在リ又一ハ買  
主ニ取リテハ製造者若クハ輸入者ヨリ直ニ其  
物品ヲ買入ル、丁ヲ得ルヲ以テ後ラニ其價ヲ  
貴カラシム可キ中間人入者ノ冗費ヲ省キ即カ  
ラ其價ヲ廉ナラシムルニ在リ  
千八百五十八年ノ法律ヲ以テ所法裁判所ノ許

可ヲ受クル丁ヲ要セスシテ多量ニ物品ヲ糶賣  
スル丁ヲ許シタルノ主旨ハ專ラ同上ノ益アル  
ニ基ク所ナリ然シテ其物品ハ即チ外國品ニテ  
ハ食料品及ヒ製造用ノ生品類ニシテ内國品ニ  
テハ穀物、油、酒、薪、炭、材木ノ類ナリトス  
右糶賣ハ別段其糶賣ノ許可アリシ場所ニ於テ  
商業世誼人ノ補助ヲ得テ之ヲ為ス可シ  
貸庫及ヒ糶賣場ヲ設クルノ許可  
ヲ得ル法式並ニ其設立人ノ義務  
貸庫或ハ糶賣場ヲ設立セント欲スル者ハ普通



ノ制規ニ循フ可キ者ニシテ其許可（勅命ヲ以テ之ヲ為ス）ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立ス可ラス然シテ其許可ノ願書ハ州長ノキヲ送テ農商工部知ニ之ヲ差出スベシ  
右ノ願人ハ其設立ノ緊要ニ適應シタル資本金ヲ有スルノ証ヲ立テ且其保証トシテ金銀貨或ハ他國通用ノ手形類ヲ出ス可レ但シ其保証金ノ高ハ許可ノ勅書ヲ以テ之ヲ定ム  
貸庫場及ヒ糶賣場ノ持主及ヒ設立人ハ人ヨリ委託サレタル物品ノ監守及ヒ其保存ノ責ニ任

シ且其物品ヲ庫ニ納メ或ハ之ヲ糶賣ニ為リシト欲スル者ノ意ニ隨ヒ其庫又ハ糶賣ヲ貸ス可シ藏敷及ヒ糶賣場貸渡料是ニ其局ノ諸規則ハ前以テ之ヲ定メテ世上ニ公告ス可ク且之ヲ施行セサル前ニ其管轄ノ州長、高業會議所兩添裁判所ニ届出ツ可シ  
又「マカザンゼ子ロウ」及ヒ糶賣場ハ永久官ノ監督ヲ受ク可キ者トス

貸庫場及ヒ糶賣場ノ緊要

貸庫場及ヒ糶賣場ノ緊要ナルハ左ノ金額ヲ以



テ之ヲ証スルニ足レリ  
千八百六十六年一月ヨリ十一月マテニ貸庫場  
ニ預カリタル物品ノ價四億三千五百八十五万  
四千<sup>一</sup>フランクニシテ同時間ニ貸庫場ヨリ出シ  
タル預リ証書ノ數ハ二萬〇九百八十九<sup>通</sup>此但証  
<sup>書ノ價ハ三億六千</sup>ナリトス然シテ此証書ヲ  
以テ人ヨリ借入レタル金高ハ二億四千九百七  
十二萬三千五百〇七<sup>一</sup>フランク  
糶賣所ニ於テ右ノ期限間ニ糶賣シタル物品ノ  
金高ハ五万五千一百五十八百八十<sup>一</sup>フランク

ニ至レリ

第六章

商業ヲ為スニ必要ナル能カ及  
ヒ商人ノ義務權利

本章ノ區別

前ノ敎章ニハ工業製作自由ノ原則ヲ制セシ條  
目ヲ論シタルニ因リ此章ニ於テハ曩キニ商人  
ノ事ヲ説キシ總論ヲ完全ナラシメントス依テ  
今之ヲ言フニ抑モ商濟學ノ目的ハ商業ヲ為シ  
得可キ人如何商人ニ管スル特別ノ義務如何商  
人ニ屬スル權利如何ノ三綱ヲ論スルニ在レハ



左ニ逐次之ヲ解明ス可シ

第一款

商業ヲ為スニ必要ナル能力

法商

自第ニ條  
至第七條

商人ト為リ得可キ者

本系何人ニ限ラズ商人ト為ルヲ得可シト雖  
モ亦特別ニ然ラサル者アリ

第一 商業ハ或ル職務ト兼行フヲ得サル者ト  
ス例ヘハ裁判役、代言人、公證人、裁判所ノ使吏、代  
書人ノ如キハ嫌疑ヲ防ク為メ商業ヲ為スヲ  
禁ス又政府ノ諸官員ハ其擔任セラレタル入札

又ハ自ラ指揮スル所ノ工業起作ニ加ハルヲ  
禁スルカ如キモ亦之ト同一ノ意旨ニ基ク所ナ  
リトス

然レモ右ノ制禁ハ之ヲ真ニ所謂商業上ノ不能  
カト稱ス可ラサルニ因リ若シ右ノ各人其職務  
ニ對シテ禁止セラレタル商業ヲ行フ時ハ其商  
業ノ効ヲ生シ之レヨリ起レル通常ノ義務ヲ行  
フ可シ然レモ其職務上ノ成規ニ觸レテ商業ヲ  
営ミシ者ハ懲罰即チ停職若クハ免職ヲ受渡ラ  
ル可シ



商業上ノ不能カ

第二 又人ニ因リテハ商業ヲ為シ得可ラサル者アリ此ヲ以テ其者ノ記シタル証書ハ裁判所ニ於テ其者自カラ其取消ヲ願ヒ且ツ取消ハ申渡ヲ受ク可シ

証書ヲ取消ス時ハ其証書ヲ効ナク者ト為シ之ヲ全ク初メヨリ記セサル者ト省做ス可シ  
商業上ノ不能カ者トハ狂癲ノ故ヲ以テ治産ノ禁ヲ受ケタル者或ハ財産ヲ浪費シ若クハ精神ノ暗愚ナルニ因リ裁判所ヨリ任セシ輔佐人ノ

監護ヲ受クル者或ハ幼者及ヒ有夫ノ婦人ノ如キ即チ是ナリ

然レモ治産ノ禁ヲ受クル者或ハ裁判所ヨリ任セシ輔佐人ノ監護ヲ受タル者ノ不能カト幼者及ヒ有夫ノ婦人ノ不能カトハ大ニ差別アリトス故ニ其第一類ノ者ニ於ケル商業ノ不能カハ完全ノ者ニシテ其治産ノ禁ヲ受ケ又ハ裁判所ヨリ任セシ輔佐人ノ監護ヲ受クル間ハ決シテ其不能カラ免ル、トテ得サル者ナリト雖モ幼者若クハ有夫ノ婦人ニ於ケル商業上ノ不能カ



ハ特別ノ許可ヲ受クル時ハ則チ之ヲ免カル、  
丁ラ得可<sup>ク</sup>者トス故ニ幼者及ヒ有夫ノ婦人ハ  
其特別ノ許可ヲ得タル上ハ其許サレシ商業上  
ノ諸事ヲ行フノ能カラ得可シ  
右許可ノ式及ヒ其効ハ幼者ト有夫ノ婦人トノ  
別ニ從ニ各<sup>々</sup>互ニ異ナル者トス

幼者

幼者(即チ二十一歳以下ノ者)ハ自立シテ諸事ヲ  
行フノ能カナキヲ定則ト為シ其後見人アリテ  
幼者ノ事務ヲ管照シ幼者ノ管係アル諸事ハ後

見人代<sup>テ</sup>之ヲ處置ス可シ故ニ幼者ハ其不能カ  
ノ為メ商業ヲ行フ可カラサルニ因リ自<sup>ラ</sup>高  
業ヲ為サントスルニハ先ツ其不能カラ免レサ  
ルヲ得ス

幼者商業ヲ行フニ必要ナル條件

幼者ノ高人ト為リ得ル為メニ左ニ記スル四  
箇ノ條件ヲ必要トス

第一 後見ヲ免ル、事

後見ヲ免ル、トハ後見ヲ止メ幼者ヲシテ自<sup>ラ</sup>  
其財産ヲ管理セシムルヲ云フ然シテ其後見ヲ



免ル、丁ハ其父ヨリ若シ又其父ノ既ニ死シタル時ハ其母ヨリ其由ヲ治安裁判所ニ届出ルヲ以テ之ヲ為スベシ若シ又向親共ニ死シタル時ハ治安裁判後ノ上席シタル親族會議ノ議定ニ由リ其後見ヲ免ル、丁ヲ許ス可シ

第二 満十八歳ノ齡ニ至ル事

年齢十五歳以上ノ幼者ハ其父若クハ其母ノ許諾ヲ得テ後見ヲ免ル、丁ヲ得可シト臣モ年齢

十八歳ニ至レニ非カレハ商業ヲ営ムヲ得可ク

第三 特ニ商業ヲ営ムノ許諾ヲ受クル事

商業ヲ営ムノ許諾ハ其父之ヲ為シ若シ其父在ラサル時ハ其母ヨリ之ヲ為ス可シ但其許諾ハ之ヲ明文ニ掲ク可キ者ニシテ時アリテハ公證人ノ面前ニテ記シタル証書ヲ以テスルヲアリ或ハ後見ヲ免レシムル時ニ當リ其由ヲ治安裁判後ニ届出ツル書面ヲ以テスルヲアリ若シ兩親共ニ存セサル幼者ハ親族會議ノ議定



ニ因リテ其許諾ヲ受ク可ク且其議定ハ幼者ノ  
位所ヲ管轄スル民法裁判所ノ允許ヲ受ク可キ  
者トス

然レモ裁判所ノ允許ヲ受ルハ親族會議ノ許諾  
ヲ為ス時ニ限リテ其父母ヨリ許諾ヲ為ス時ノ  
如キハ裁判所ノ允許ヲ要セザルナリ

第四 許諾ノ證書ヲ民法裁判所ノ簿冊ニ登  
記シ且之ヲ掲示スル事

許諾ノ證書ハ之ヲ民法裁判所（幼者ノ高業ヲ行  
ハシテト欲スル地  
ルヲ管轄スル所）書記官ノ監守セル簿冊ニ登記シ且之

ヲ訟庭ニ掲示ス可シ

右第四ノ法式ハ何レノ場合ニ於テモ踐行ス可  
キ者ニシテ其本旨ハ幼者其不能カラ免レ何人  
ニ限ラス將來其幼者ト懸念ナク契約ヲ結ビ得  
可キトテ公告スルニ在リトス

幼者商人ノ分限ヲ得レニ因リ起  
ル條件

前文記スル所ノ諸法規ヲ履行シタル幼者ハ商  
業ヲ行フニ必要ナル諸證書ヲ記スルトテ得可  
シ故ニ通常後見ヲ免レタル幼者ハ管財人ノ立



合アルニ非サレハ重要ノ證書ヲ記ス可カラサ  
ルヲ以テ通規ト為スト雖モ商人ト為リタル幼  
者ハ管財人ニ頼ラシテ商業ニ管スル終テノ  
證書ヲ記シ且契約ヲ活ブテ得可レ  
又商業ヲ管ム幼者ハ不動産書入ニ管スル一定  
ノ成規即チ親族會議ノ議定ヲ且ツ裁ヲ踐マ  
スシテ其商業ノ為メ已レニ属スル不動産ヲ書  
入ニ為ステ得可レ然レモ幼者ハ縱令商業ヲ  
管ム許諾ヲ得タル時ト雖モ其不動産ヲ賣拂  
フニ付テハ同上ノ成規ヲ履行セサルヲ得ス

通常ノ幼者即チ商業ヲ管ム幼者ハ自ラ其權利  
ヲ行テ得可ラサル故テ一旦記シタル證書  
ト虽モ已レノ為ニ害アル時ト之ヲ取消ステ  
得可シト虽モ商業ヲ管ム幼者ハ之ニ及シ其幼  
年ナルヲ以テ一旦為シタル契約ヲ取消ステ  
得ス其證書ハ恰モ丁年者ノ記セシ者ト同一ノ  
効アリトス  
若シ右ノ如クナラサル時ハ縱令幼者ノ商業ニ  
従事スルモ其証ナカル可シ何トナレハ世人多  
クハ幼者ノ其一旦結ヒシ契約ニ背テラ其取消



ヲ求、得可キ懸念スルヲ以テ知者ト契約ヲ結  
ブヲ欲セサレハナリ  
其他商業ヲ管ムノ許可ヲ得タル幼者ト虽モ唯  
其商業ニ関係シタル事ノミニ付テ其不能カラ  
免レ其他ノ事ニ至リテハ唯其財産支配ニ管ス  
ル所為ノミ自カラ之ヲ行フヲ得可ク財産支配  
ノ範圍外タル重要ノ事ハ管助人ノ立合アルニ  
非レハ之ヲ為ス可カラズ又特別ノ場合ニ於  
テハ親族會議ノ許諾ヲ受ケ裁判所ノ允許ヲ得  
ルニ非サレハ之ヲ為ス可カラサルナリ

有夫ノ婦人

有夫ノ婦人ハ其夫ノ許諾ヲ得若クハ裁判所ノ  
允許ヲ得ルニ非サレハ已レ、財産ヲ隨意ニ處  
置シ又ハ他人ト契約ヲ結フヲ得サル原則ト  
シ且其夫若クハ裁判所ノ許諾ヲ得タルト雖モ  
特ニ其許諾ヲ得タル事件ヲ除クノ外之ヲ高用  
ス可ラス故ニ婦ノ為サント欲スル事件ニ就テ  
ハ各箇ニ其許諾ヲ得ルヲ必要トス  
其夫若クハ裁判所ノ許諾ヲ得スレテ婦人ノ記  
シタル證書ハ其婦又ハ其夫ノ親ニヨリ之ヲ取



消ス可ラ得可シ

以上記スル所ハ普通ノ法則ナリトス

商業ヲ管ム可キ許諾及ヒ其効

有夫ノ婦人ハ其夫ノ許諾ナケレバ商人タルコト  
ヲ得スト臣モ一旦其許諾ヲ得タル時ハ更ニ特  
別ノ許諾ヲ受ルヲ要セスレバ商業ニ関スル諸  
事ヲ行ヒ賣買又ハ契約ヲ為シ或ハ為替手取ニ  
手署スルコトヲ得可シ

夫ヨリ商業ヲ管ムノ許諾ヲ得タル婦ハ各事其  
承諾ヲ受クルヲ要セスレバ然ラノ商業ヲ管ム

コトヲ得可シト雖モ其許諾ハ商業ヲ管ムコトノ三  
ニ限リテ其他ノ事柄ニ通シ用フ可ラス故ニ其  
他諸般ノ事ハ普通ノ法則ニ循ヒ其夫若シハ裁  
判所ヨリ各別ニ其許諾ヲ受ルコトヲ必要トス  
若シ婦人財産共通ノ法ニ因テ婚姻ヲ結ビタル  
時ハ其婦人商業ニ就キ結ビタル契約ノ義務ハ  
婦人ノ一身ノミニ止ラス故ニ商業上ニ管シ義  
務ヲ得可キ人(即ち債主)ハ婦人一己ノ財産ニ放ケル  
ノミナラス共通ノ財産及ヒ其夫ノ財産ヲ以テ  
其義務ノ施行ニ充テシムルコトヲ得可シ



商人タル婦人ハ商業ノ為ニ已レノ不動産ヲ書  
入質ト為シ又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得可シ但シ婚  
姻ノ契約書ニ嫁資分括ノ法ニ循フ可キコトヲ定  
メテ其不動産ヲ賣拂フコトヲ禁シタル時ハ此限  
ニ非ス

嫁資分括ノ法トハ婚姻ノ費用ヲ助クル為メ  
婦ノ持来リタル財産ヲ賣拂ヒ又ハ書入質ト  
為ス可キサル事ヲ定ムル法ヲ云フ  
又婦ハ商業ヲ為スノ許諾ヲ得タルトモ其夫  
ノ許諾若クハ裁判所ノ允許ヲ受クルニ非ザレ

ハ訴訟ヲ為スコトヲ得可ラス

婦ヲ目シテ商人ト為ス可キ場合

夫アル婦人ニ管シテ上文ニ説述シタル諸規則  
ハ真ノ商人タル婦人ニ非ザレハ之ヲ通シ用フ  
可ラサル者トス而シテ其夫ノ商業ト別ニシテ一  
己ノ商業ヲ行フ時ニ非ザレハ其婦ヲ目シテ商  
人ト為ス可ラス

又其夫商人ニシテ其婦亦夫ノ商業ニ干渉シ夫  
ノ為メニ商業簿冊ヲ記シ計算ニ任シ金銀ヲ預  
カレ等ノ諸事ニ従事スト雖モ此場合ニ於テハ



其婦商人タルニ非スレテ唯之ヲ夫ヨリ委任ヲ  
免ケシ者ト着做ス可シ然ル時ハ其婦人ハ自己  
ノ為ニ商業ヲ為スニ非スレテ其夫ノ為ニ之ヲ  
為スカ故ニ自ラ記シタル證書ニ就テモ婦人ハ其  
責ヲ負フヲナク唯其夫ノニ其婦ノ為シタル契  
約ヲ執行ス可キ義務アリトス是レ蓋シ婦人ハ  
其夫ノ代理人タルヲ以テナリ

國商工法鑑卷之二終